

生活に生かす	12 ぬいしろを調べる		ちょうどいいね。	よくわからせる。 •箱の大きさと同じ布の必要量がわかったか。(ウ)
	13 学習のまとめをする	40	○のりではり合わせたところは、布の何にあたりますか。 ぬう幅を「ぬいしろ」といいます。ぬいしろはどうなっているか、はかってみよう。	○「ぬいしろ」は、標本のぬいしろを実測させて、理解させる。 •どのぐらいのぬいしろがよいか。(ウ)
	14 次時の計画をたしかめる		○きょうの学習で、はっきりわかったことを、まとめてみよう。	•布の大きさは、さいほう箱の大きさに、ゆるみとぬいしろを考えて決めることがわかったか。(ア)
	おわり	45	○つぎの時間の計画をたしかめよう。	○ぬい合わせる場所です。 •わきは、1.5cmです。 •底も、1.5cmです。 •ひものところは、だいたい3cmぐらいです。 ○布の大きさを決める要点をまとめてノートする。 ①もとの大きさ $\text{横まわり} \times \frac{\text{縦まわり}}{2}$ ②ゆるみ ③ぬいしろ ○型紙作りです。

(2) 実験授業結果とその考察

本時の授業をとおして、児童の学習能力がどのような思考過程を経て、定着していったか、つぎの2点に焦点をあててとらえてみる。

- 試作の袋作りを通して、橋の大きさを（横ま

わり×縦まわりの半分）と、とらえることができる。

- 資料の活用により「ゆるみ」と「ぬいしろ」のだいたいがわかる。

①児童の思考過程の実際と考察

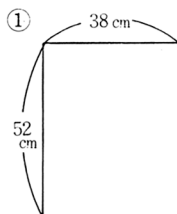
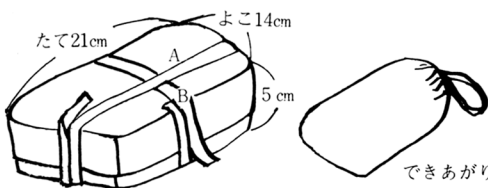
袋の布の大きさを、直方体の六面の広さというとらえ方から、（横まわり×縦まわりの半分）へという思考転換がどうなされたか。

㊦ 前提学習能力調査の実態

調査問題は下記のとおりである。

さいほう箱をいれるふくろをつくりたいのです。はかった寸法をもとにどのぐらいの布が必要か、①～⑤の中からえらびなさい。

たてまわり52cm よこまわり38cm



※ 紙面のつごうで、①だけ図示する。

- ② 59cm×39cm ③ 59cm×39cm
- ④ 63.5cm×43cm ⑤ 33cm×40cm

(正答は③)

上の問題に対する反応はつぎのとおりである。